

1. 最新の活動 ; ワシントン・ジュネーブ・パリ訪問報告、ストップ結核議連、等

【 AAC委員会、米国リザルツ、世界銀行、IMF訪問 (ワシントンDC) 】

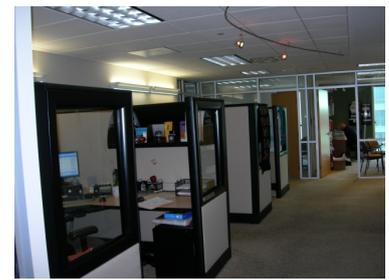
9月27日から10月3日にかけて、リザルツの白須・狩野が米国首都ワシントン(国際 NGO・PATH)で以下の会合への出席、要人への訪問を行った。ストップ結核パートナーシップ(本部ジュネーブ)のアドボカシー・アドバイザー・コミッティー(AAC)の会議ではアドボカシーの役割を最大化するための、事務局、パートナー、理事会、AAC、ワーキング・グループの役割について議論。まとめを11月の理事会に提出することに。AACメンバーで、ケニアの結核・エイズ患者/活動家であるルーシー・チェシーレ氏との議論を深め、ケニアで来年度から予定されている JICA 結核案件を実現・拡大していくことで協力していくことを約束した。また、ワシントン郊外の「アエラス社」を訪問。ラボを見学し、社長から開発中の結核ワクチンの説明を受けた。更に、世界銀行を訪問し、高村泰夫・日本理事代理、鈴木博明・都市問題専門家と面談。世銀での一層の結核対策をお願いした。次いで前田明子氏(中東・北アフリカ地域保健・栄養・人口セクター担当マネージャー)と面談し、今後の案件形成過程における助言をいただいた。IMF においては、宮崎成人氏(財務省から出向中)と面会。氏には、2008年ストップ結核日本アクションプランの作成を支援していただいたので、それへのお礼を申し上げ、今後の協力をお願いした。また、リザルツ教育基金(REF)にて、幹部・日本担当者と会合を持ち、世界的な結核アドボカシー戦略について議論した。各地を訪問した印象として米国リザルツなどのNGOの規模と環境は我々の想像を超えていた。



PATHでのAAC委員会の様子



PATHワシントン支部の入っているビル



PATHのオフィス

【 ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会 】

10月13日、議員連盟の総会が参院議員会館で開かれ、日本リザルツのメンバーも参加した。総会では、新会長として、日本リザルツの理事を長く務めていただいている広中和歌子参議院議員が選出された後、副会長、事務局長の指名が行われた。広中新会長は就任挨拶の中で、大阪あいりん地区の高い結核罹患率の件、新型インフルエンザワクチンの結核患者への優先接種の必要性について述べ、また、結核は少ない費用で治療さえすれば治せる病気であることを再確認すると共に、最近増加してきた多剤耐性・超多剤耐性結核について警告した。その後の発表・質疑応答においては、ストップ結核パートナーシップ日本、結核予防会から、結核医療診療報酬改定、新型インフルエンザへの対応に関する要望についての説明、結核予防会顧問の尾身茂氏による、エイズ対策へのリーダーシップの期待は米国に向けられることが多いが、結核については圧倒的に日本が期待されているとの話があった。日本リザルツの白須からは、リザルツがPEPFAR(米国大統領エイズ救済緊急計画)、Global Fund(世界エイズ・結核・マラリア基金)、DFID(英国国際開発庁)、MAP(世界銀行アフリカ向け多国エイズプログラム)の結核とエイズの二重感染対策の取り組みを調査したパンフレット『エイズと闘いながらも、結核で死んでしまう人々』の内容の重要性を訴え、参加者には是非読んでほしい旨要請した。また、アフガン・パキスタンの結核情勢や WHO の結核部門や世界抗結核薬基金(GDF)への資金拠出額で日本は極端に少ないことなどを説明した。



選出された広中新会長と新役員

【 新宿ホームレス結核検診 】

新宿区の保健所の主催でホームレスの人たちを中心に結核のレントゲン検査が無料で行われた。10月14日(水曜日)の午前9時から11時半にかけて検査実施場所である新宿区役所第二庁舎には、96人が結核予防会のコンピュータ結核検査用車両の中で検査写真を撮り、即医師による画像診断も行われた。今回、3名の結核の疑いのある人が見つかり、うち1名は排菌しており、痰の検査に回された(後に、結核と診断された)。新宿区では、平成7年からこの検査を実施しており、11年からは年2回に増やし、夏には新宿中央公園で行って



結核検診車がきた新宿第二庁舎

いる。ちなみに今夏に行われた検査には、211人が検査を受け、3名が結核と診断された。昨年は2回の検診で、159人中、こちら3名が結核と診断されている。新宿区保健所の健康部保健予防課保健相談係保健師によると、新宿区は都内では台東区に次いで2番目に結核罹患率の高いところ。昨年の区全体の、10万人当たりの率は、45.8人。今年は、すでに53.5人と出ている。新宿区の結核に罹る割合は、最近増加傾向にある、といえる。

【 ストップ”kaku”キャンペーン 】 キャンペーンは継続中！

プラハでの演説、国連総会”核兵器のない世界”の決議、そして、ノーベル平和賞受賞の決定...。世界で毎年175万人の尊い命が失われている“結核”は、エイズ、マラリアと並んで三大感染症の一つです。アメリカのオバマ大統領へ、もう一つの結核“kaku”をなくすためにもリーダーシップを、ぜひ発揮していただきたい！

”核兵器”と共に”結核”を世界からなくすことに貢献して2度目のノーベル平和賞を受賞して下さい！！...という想いを込めて、オバマ大統領へメッセージを送るキャンペーンを展開中です。ストップ結核推進議員連盟をはじめとした超党派の国会議員、10月17日反貧困ネットワーク主催の反貧困世直し大集会、11月1日ピープルズ・プラン研究所主催、11月7日「女性の貧困ネットワーク」主催のシンポジウムがそれぞれ開かれ、主催者やパネリスト、参加者、また慶応大学の学生、北海道、岐阜、広島、松山など市民の多くの皆さまが署名に協力していただいた。キャンペーンは継続中です。皆様も是非ご協力よろしくお願ひいたします。



オバマ大統領宛のメッセージ

* 日本リザルツのホームページ(<http://www.results.jp/>)から、FAX署名用紙をダウンロードすることができます。

【 国際アクション・パートナーズ会議 (ジュネーヴ) 】

10月17日～20日にかけて、国際アクション・パートナーズ会議があり、日本リザルツからは白須・狩野が出席。会議には、米国リザルツ本部(REF)、英、加、仏、豪、ケニヤ、インド、ブラジル、日本の9カ国から27名が参加。主な議題としては、世界的な経済不況の中で世界基金、二国間の結核へのコミットメントが減少する可能性がある中、結核のモメンタムを維持・拡大するためにいかなる世界・国別戦略で望むべきか、というテーマで議論を重ねた。また、WHO 結核部門、世界基金、国連合同エイズ計画(UNAIDS)など、在ジュネーヴの国際機関を訪問した。

【 パリでの、国際金融取引課税会議に出席 】

狩野は、ジュネーヴのアクション会議参加後、10月19日から24日までパリに出張し、10月22日にあったフランス外務省主催の「国際金融取引と開発のタスクフォース」創設のための閣僚級会議後のNGOブリーフィングセッションに参加する機会をえた。閣僚級会議には、日本からは西村外務大臣政務官が出席し、日本を含む12カ国が協力を表明・署名した。2010年6月のタスクフォース閣僚級会議で、国際航空券税・通貨取引税などの具体的な課税方式を提案する調査研究報告書が提出され、各国での法案化にむけて一步を踏み出すことになる。

【 ジェフリー・サックス(世界的経済学者/リザルツサポーター)氏の歓迎会で発言 】

ミレニアム・ビレッジ活動の一環で来日中の、国連のMDGs作成の中心人物でもあるジェフリー・サックス氏の歓迎会が、米コロンビア大学OBの同窓会と合同で10月31日行われ、リザルツより白須、服部が出席した。サックス氏のスピーチの後、質疑応答があり、リザルツからはマイクロ・クレジット(以下、MC)とUNITAID、結核対策と世界基金について質問。氏は、リザルツはじめ各方面の努力によって特にMCについては各段の発展を見た。その他についてはまだ世界へのアピールが必要だが、特に日本が果たす役割には他組織・国とのシナジーを通して重要な



ジェフリー・サックス氏と白須

ものがある、との回答があった。また、日本リザルツとの連携の強化も視野に入れて示唆した。

【 “グローバル金融危機後の途上国支援を考える” シンポジウム 】



世銀専務理事と白須

11月3日、東京大学駒場キャンパスにて世界銀行グループ・東京大学共催シンポジウムが開催された。午後のパネル討論のテーマは、「今、持続可能で弱者に配慮した発展・成長のために何が必要か？」である。パネラーは、河合正弘・アジア開発銀行研究所所長はじめ4名、世銀側はongoing・オコンジョ-イウェアラ・世銀グループ専務理事ら5名。討論では、特に三大感染症対策の重要性が強調され、世銀に対して世界2位の資金拠出国である日本に対して、新政権が「TICAD IV 横浜アクションプラン」の実現・拡大に強くコミットすることなどが話された。また、「国際連帯税」のリーフレットを会場で配布させていただいた。

2 . ストップ結核パートナーシップの動き

～ 内山 雄太 氏～

【 GDF(世界抗結核薬基金)の現状と抗結核薬管理の課題 】

途上国では、長年、有効性、安全性に疑問のある抗結核薬の流通が問題となっていました。これに対処するために、2001年、世界抗結核薬基金(GDF)が世界保健機関(WHO)のストップ結核パートナーシップに設立されました。GDF はこれまで、93か国の約1,400万人の結核患者に高品質、低価格な抗結核薬を供給し、大きな成果をあげました。近年は、製薬産業への技術支援(高品質な抗結核薬の製造支援)、途上国関係者への抗結核薬管理研修まで事業を拡大し、援助国・機関からの拠出額も増えました(累計で約250億円)。一方、事業拡大が結果として職員・途上国技術支援要員の大幅な増員による人件費の高騰、製薬会社の設備投資コストの高騰などを招き、資金不足が解消されていません(日本のGDFへの拠出額も累計で600万円強に過ぎず、主要援助国としての責任を果たしていません)。また、薬剤管理専門家の数は限られ、途上国での巡回指導や研修に費やす期間も1週間程度と短いため、根本的な問題解決になっていないことは明白です。2002年には、途上国の三大感染症(結核、エイズ、マラリア)対策のための世界基金が設立されましたが、結核対策については、両基金の協力体制が明瞭でないために非効率な部分があります。例えば、一方の基金が途上国からの申請案件を不承認とし、結果として在庫不足が発生した際、もう一方が迅速に対応できないことがあります。両基金の協力体制の在り方が今後の課題となります。一般に薬剤の問題は「量」のみに焦点が当てられがちですが、適正な在庫管理、服用まで気を配らなければなりません。今後、これを包括的に指導できる専門家の育成が不可欠です。GDF・途上国の薬剤管理専門家としての経験から、現状と私見を述べさせていただきました。

特定非営利活動法人 ストップ結核パートナーシップ日本(STBJ)事務局次長 内山 雄太

3 . マイクロクレジット(MC) ～マイクロクレジット2009年版 最新レポート～

マイクロクレジット近況報告(9)

【 マイクロクレジット・サミット・キャンペーン2009 】

マイクロクレジット・サミット・キャンペーン2009年レポートの日本語翻訳版がついに完成!

2006年にカナダで開催された第三回マイクロクレジット・サミットでは、2006年-2015年をフェーズとして、「最貧困層1億7,500万世帯(特に女性)に、マイクロクレジット(以下、MC)へのアクセスを確保し、最貧困層1億世帯の所得を、1日1ドル以下から1ドル以上に引き上げる」ことが目標として採択された。2009年レポートでは、この目標に対する進捗状況とともに、2008年にインドネシアで開催されたアジア太平洋地区マイクロクレジット・サミットまでの情報が掲載されている。2007年末で、世界の1億5,482万5,825世帯がMCを享受し、そのうち1億658万4,679世帯は、1回目の融資を受けた時には最貧困層だった。推定によれば、その家族を含め5億人がMCの恩恵を受けたことになる。また、この最貧困層世帯のうち、女性は借主の83.4%を占め、約8,870万人であった。(報告書提出機関数:3,552団体)1997年当時800万人弱しかいなかった享受者数が、瞬間に広がっている。

*日本リザルツのホームページ(<http://www.results.jp/>)から、レポート(PDFファイル)をダウンロードすることができる。

4. パートナー / ボランティアの皆さまからの声

～ 水澤 茂さん ～

【 グローバルフェスタ JAPAN2009 ボランティアに参加して 】

“アドボカシー”という方法で市民参加できるNGOもあるんだなぁ～と日本リザルツのH・Pを読んでいました。ちょっと一歩踏み出して、この夏からは戦略会議にも参加させて頂くようになりました私です。そしてさらにまた一歩、ずうずうしくでしゃばり、今回のグローバルフェスタの現場でお手伝いさせていただきました。あの会場、こころざしがあって参加しているスタッフもちろん、国際貢献というキーワードで来場していた一般の方、偶然イベントに立ち寄ってくださった方、ふと、思っていたのではないのでしょうか。(国際貢献) 手伝えればいいけど、ど～にかしたいとは思うけど、何をしたら…自分はどーしたらいいの? どんな貢献できるテーマがあるんだろう…(飢餓と貧困対策) どんな手法があるんだろう…(マイクロファイナンス) 具体的には何が大変なの…(結核対策) いろいろするには財源がいるじゃない…(国際連帯税) パンフレットを受け取っていただいたり、お話できたり、署名していただいた方、ありがとうございました。日本リザルツらしい手法でお伝えできましたでしょうか?これがキッカケで日本リザルツのH・Pに来てくださったり、街角で(ストップ結核)のポスターを見るたびに思い出して、その事を身近な方と話題にさせていただけたらと…。雨と日焼けの2日間を振り返って、参加させていただいた充実感と、今、思うところです。

ボランティア:水澤 茂

5. お知らせ

【 第89回 GII / IDI に関する外務省 / NGO 懇談会 】

11月18日(水) 午後3時00分～5時00分 外務省にて開催

【 ストップ結核パートナーシップ日本(STBJ)理事会・総会・レセプション 】

11月19日(木) 財団法人結核予防会内 大会議室にて開催

理事会 午後5時30分～6時00分 総会 午後6時00分～6時30分 レセプション 午後6時30分～8時00分

【 第5回国際連帯税推進協議会 】

11月27日(金) 午前9時30分～11時30分 参議院議員会館にて開催

【 第2回ODA改革パブリックフォーラム 】

11月28日(土) 午後1時45分～9時00分 国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催

【 IUATLD(国際結核肺疾患予防連合 年次総会) 】

12月3日(木)～7日(月) メキシコ・カンクンにて開催

【 アフガニスタンの平和と復興を考えるトーク・イン 】

12月19日(土) 午後1時00分～3時30分 明治学院大学・白金キャンパスにて開催

当マンスリーレターに関するご質問・ご意見などございましたら info@results.jp までご連絡ください。

ご寄附のお願い:世界の貧困・保健問題の解決のため、政策提言活動を行っております。持続的な活動を続けるためにご支援をお願いいたします。郵便局の払い込み用紙に、口座番号00170-9-581459(加入者日本リザルツ)とご記入ください。便利な自動口座引落しについてはTEL:03-5280-2888までお問い合わせ下さい。

リザルツは、政治家やメディアと協力し、貧困に苦しむ人々の声を政策に反映させ、「貧困と飢餓のない世界」を創ろうと活動している国際市民グループ(NGO)です。日本の他、米国、カナダ、英国、フランス、豪州、ドイツ、メキシコなどで活動しています。日本リザルツは1989年の発足以来、ODA(政府開発援助)政策において、貧困削減への費用対効果が高く、且つ、顔の見える援助政策について、政府に提言しています。リザルツのユニークな活動方法は、草の根の市民から、国務長官のヒラリー・クリントン氏、経済学者ジェフリー・サックス氏、元南アフリカ大統領ネルソン・マンデラ氏など世界の著名人達に至るまで、幅広い層の支持を得ています。マイクロクレジットでノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行のムハマド・ユヌス氏は、日本リザルツの名誉顧問です。